

PLW215 II

取扱説明書



目次

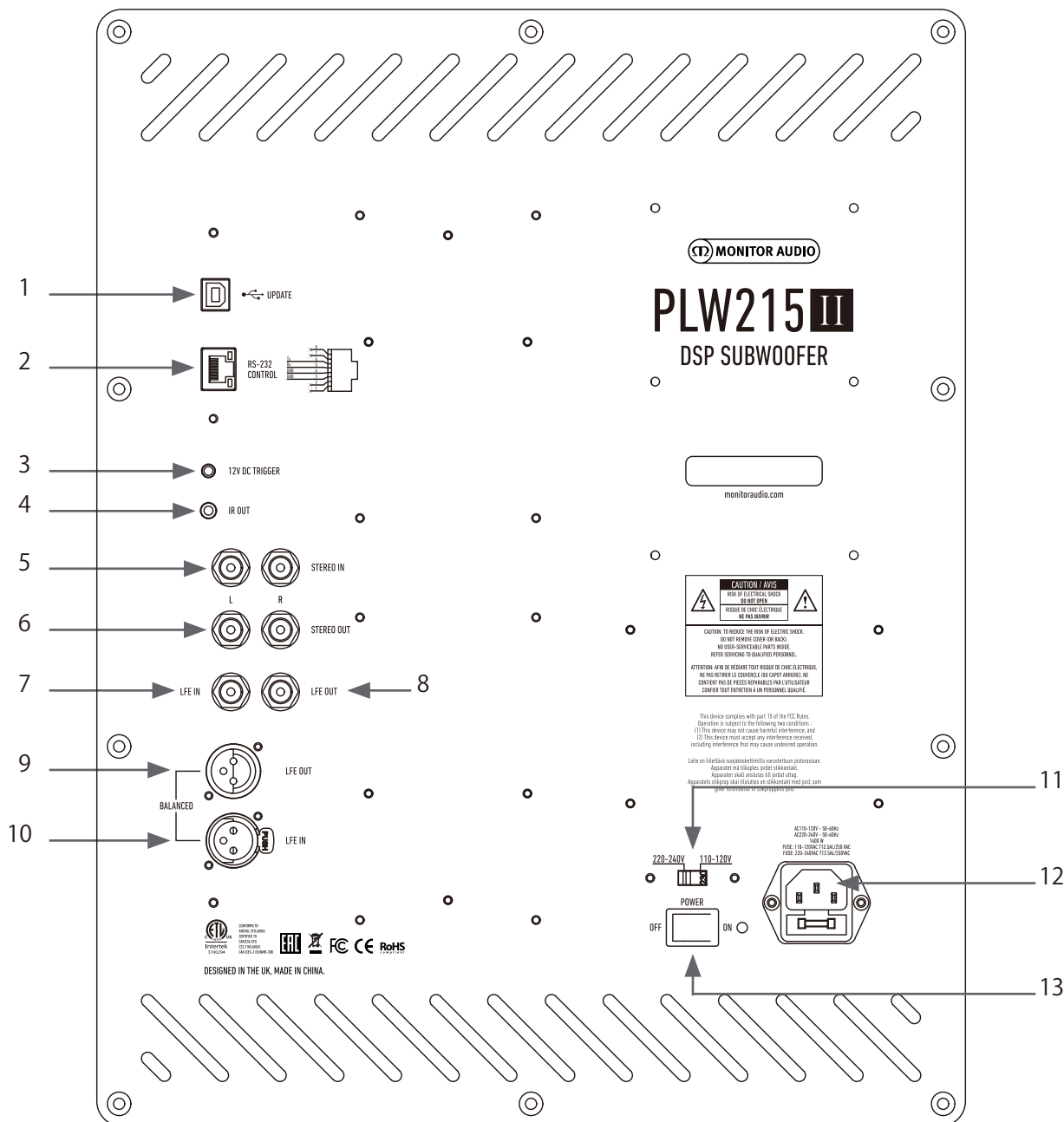
目次	1	初期セットアップ	10
付属品	1	Master Controls	11-12
リアパネル	2-3	Presets	13
リモコン	4	EQ Profiles	14
フロントパネル	4	SubConnectの更新	15
コントロールパネル	5	PLW 215 II のファームウェアの更新	16
位置決め	6	Bootloader Mode	16
カーペットフロアでのスパイク付き脚部の固定	6	自動更新	16
フローリング/タイルフロアでのスパイク付き脚部の固定	6	手動による更新	17
PLW215 II を使用する	7	ファクトリーリセット	18
電源 (スタンバイ→電源On)	7	お手入れとメンテナンス	18
Room Correction EQ (室内補正EQ)	7	保証	18
Room Correction EQ (室内補正EQ)に SubConnectを使用する	8	赤外線リモートコード	19
AVシステムの推奨設定	8	RS232	19
Stereo (2ch) の推奨設定	8	RS232配線構成	19
SubConnectアプリケーション	9	RS232通信セットアップパラメータ	19
アプリケーションについて	9	コマンドプロトコル	19
インストール	9	コマンドリスト	20
		トラブルシューティング	21
		Specifications	21

付属品

最初に箱の中身を確認してください。※欠品がありましたら直ちに購入店に連絡してください。

本体	Room Correctionセットアップマイク
リモコン (単4電池2個)	スパイク付脚部
12V Triggerケーブル	取扱説明書 (本誌)
電源ケーブル	保証書
2P/3P変換プラグ	

リアパネル



1. USBコネクタ

SubConnect (11P参照) をインストールしたWindows PCと接続し、PLW215 IIのファームウェアの更新、及びSubConnectの設定をPLW215 IIに反映させます。

2. RS232入力端子

ホームオートメーションシステムを構築するための端子です。※制御やプログラム方法の詳細 (P19, P20参照)

注意!! : 通常使用しません。

3. 12V Trigger入力端子

本機と12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバー等と接続し、電源ON/スタンバイモード切替を接続した機器側で連動して行う為の端子です。付属のTriggerケーブルで接続してください。12V Triggerケーブルを接続している時は、Auto/On機能は働きません (P12参照)。

4. IR OUT (赤外線出力)

PLW215 IIから他のIRデバイスを制御する際に使用します。PLW215 IIおよびその他デバイスをモノラル3.5mmジャックケーブルで接続します。他のデバイスのリモコンをPLW215 IIに使用して制御します。これは、他のデバイスの配線が足りない場合や、他のデバイスがサブウーファーとは別の部屋にある場合に便利です。

5. 2chステレオ入力 (RCA)

2chステレオアンプのプリアウトを接続します。10m以下のインターコネクトケーブルを推奨します。2chステレオ入力と、LFE入力の切替は自動的に行われます。

6. 2chステレオ出力 (スルー)

2chステレオ入力 (RCA) をスルー出力します。2台目のサブウーファーに接続する時等に使用します。

7. LFE入力 (RCA)

アンプ/レシーバーのLFE (サブウーファーch出力) を接続します。LFE入力を接続する場合、Low Pass Filter (P13参照) 調整機能は機能しません。2chステレオ入力と、LFE入力の切替は自動的に行われます。

8. LFE出力 (RCA/スルー)

LFE入力端子 (RCA) をスルー出力します。2台目のサブウーファーに接続する時等に使用します。

9. LFE入力 (XLR)

アンプ/レシーバーのLFE (サブウーファーch出力) を接続します。LFE入力を接続する場合、Low Pass Filter (P13参照) 調整機能は機能しません。2chステレオ入力と、LFE入力の切替は自動的に行われます。ノイズに強いバランス接続により10m以上のケーブルも使用可能です。

10. LFE出力 (XLR/スルー)

LFE入力端子 (XLR) をスルー出力します。2台目のサブウーファーに接続する時等に使用します。ノイズに強いバランス接続により10m以上のケーブルも使用可能です。

11. 電圧選択スイッチ

電源電圧の切替スイッチです。 **注意!!: 決して触れないようにしてください。**

12. IEC電源コネクタ

IEC電源コード差込口。全ての機器の接続を終えてから、付属の電源ケーブルを接続してください。

13. 電源スイッチ (POWER OFF/ON)

本体主電源のOn/Offを行います。長期間使用しない場合はOffにしてください。

リモコン



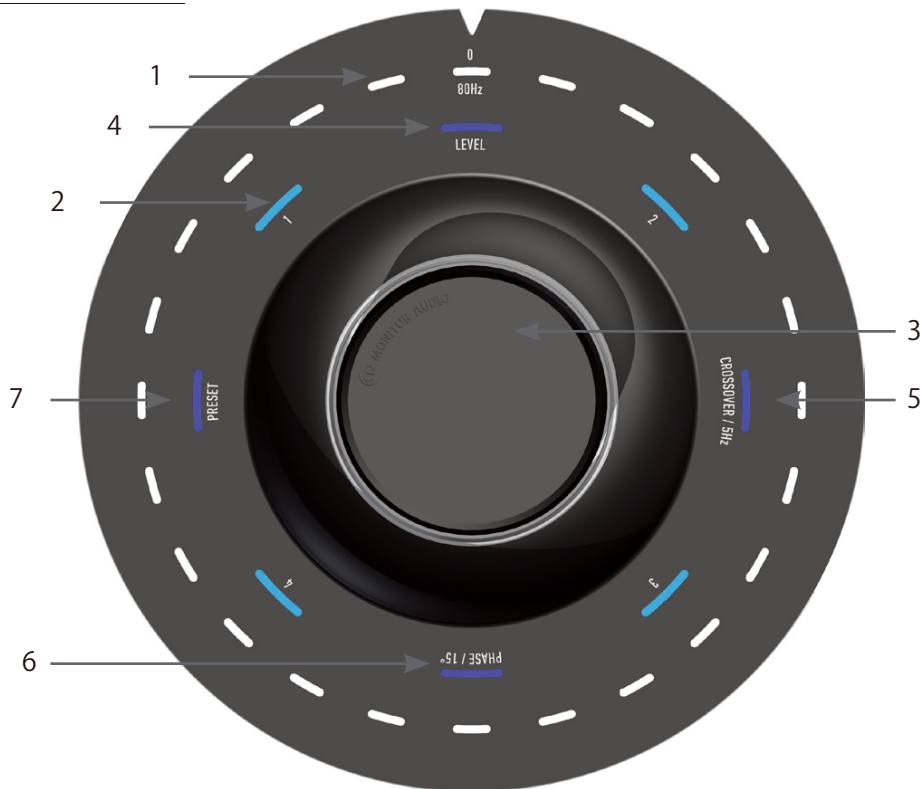
- 1. P1 (プリセット1)**
プリセット1を選択します。デフォルトのEQプロフィールはMusicモードです。
- 2. P2 (プリセット2)**
プリセット2を選択します。デフォルトのEQプロフィールはMovieモードです。
- 3. P3 (プリセット3)**
プリセット3を選択します。デフォルトのEQプロフィールはFlatモードです。
- 4. P4 (プリセット4)**
プリセット4を選択します。デフォルトのEQプロフィールはImpactモードです。
- 5. + Vol**
ボリュームレベルを上げます。
- 6. Enter**
コマンドを選択/確定します。
- 7. - Vol**
ボリュームレベルを下げます。
- 8. LEDの輝度**
LEDディスプレイのオンまたはオフを切り替えます。
- 9. スタンバイ**
本機のスタンバイ→電源/Onの切り替えを行います。
- 10. ミュート**
本機の出力をミュートします。
- 11. クロスオーバー周波数**
PLW215 IIのクロスオーバー周波数を選択します。左右の矢印で調整→Enterで決定します。20~135Hz (5Hz単位) で設定可能です。
- 12. フェイズ**
PLW215 IIのフェイズ (位相) 値を選択します。左右の矢印で調整→Enterで決定します。0~360° (15° 単位) で設定可能です。
- 13. 左**
選択したコントロールメニューを調整します。
- 14. 右**
選択したコントロールメニューを調整します。

フロントパネル



- 1. IRレシーバー**
リモコン (IR信号) 受信部。リモコンはこちらに向けて使用します。
- 2. IR LEDインジケータ**
IR信号を受信した際に点滅します。
- 3. Room EQセットアップマイク入力端子**
ここに付属のセットアップマイクを接続し、Room Correction EQセッティングを行います。

コントロールパネル



1. メインインジケータのLED

選択中のセッティングモードのレベルやプリセットを表示します。デフォルトでは、ボリュームレベルを表示します。通常使用時、ボリュームレベルはLevel LED (2) と共に表示され、選択中のプリセットLED 1~4 (3) が点灯します。

2. 1~4 LED

これらは4つのプリセットを示します。選択されているプリセットのみが点灯します。

3. コントロールダイヤル

回す：ボリュームレベル値調整（デフォルト）、各プリセットメニュー値調整（各プリセットメニュー選択時）
押す：プリセットメニュー選択（LEVEL/デフォルト→CROSSOVER→PHASE→PRESET）

4. ボリュームレベルインジケータ（LEVEL）

通常使用時に点灯し、点灯中はコントロールダイヤルでボリュームレベルを調節できます。-11dB ~ +11dB の範囲で調整が可能です。

5. クロスオーバー調整（CROSSOVER/5Hz）

Low Pass Filter（P13参照）調整機能のカットオフ周波数調整メニュー使用時に点灯します。点灯中はコントロールダイヤルでカットオフ周波数を調整できます。2chステレオ入力（RCA）選択時のみ有効です。20~135Hz（5Hz単位）で設定可能です。デフォルトプリセットでは80Hzとなっています。

6. フェイズ調整

フェイズ（位相）調整メニュー使用時に点灯します。点灯中はコントロールダイヤルでフェイズ値を調整できます。0~360°（15°単位）で設定可能です。

7. プリセット選択

プリセットメニュー使用時に点灯します。点灯中はコントロールダイヤルでプリセット値 [Music (1)、Movie (2)、Flat (3)、Impact (4)] を選択できます。

位置決め

PLW215 IIIは、最適な位置に配置を行う必要があります。過剰なベースブームを生み出す部屋の隅は避ける方が理想的です。最適な位置は、左右のフロントスピーカーの間となる、前方の壁に沿った配置です。ただし、これはすべての状況下において可能ではありません。そのため、この配置に可能な限り近づけることをお勧めします。希望の位置に配置できたら、ケーブルが引っ張られず、十分な長さであるかを確認することが重要です。PLW215iiの電源は、位置決めに完了し、脚部を取り付けるまで接続しないでください。

PLW215 IIのスイッチが入った状態では、入力接続の抜き差しを一切行わないでください。

配置が完了したら、以下のガイドラインに従い、脚部/スパイクの組み立てを行います。脚部の取り付けが完了したら、信号ケーブルおよび電源ケーブルを接続し、主スイッチをオンに切り替えます。

カーペットフロアでのスパイク付き脚部の固定

スパイク付き脚部の組み立てセットには、カーペットフロアや(フローリングまたはタイルのフロア用の) 軟質ポリマーパッドで使用するスパイクが含まれています。

カーペットの下には配線や電源ケーブルが敷かれていないかを確認してください。スパイクにより破損することがあります。

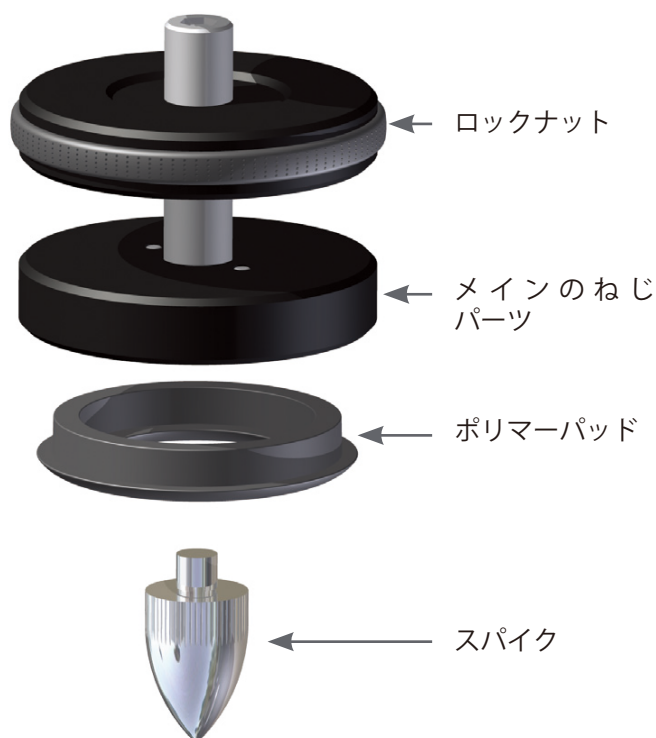
脚部は、カーペットフロアで使用できるように、完全に組み立てられた状態で出荷されています。よって、キャビネットに固定するだけで使用できます。固定する際は、キャビネット下部の4つのネジ穴に脚部を完全にねじ込みます。お使いのカーペットが分厚い場合には、脚部から軟質ポリマーパッドを取り除き、スパイク部分がカーペットを通して床に届くようにしてください。希望の位置にキャビネットを配置し、すべての側面が水平になっていることを確認します。やや水平でない場合は、最も低い位置で脚部を緩め、再度確認してください。キャビネットが完全に水平になるまで、この作業を繰り返します。ロックナットを使用して、適切な位置に脚部を固定して振動を止めてください。

フローリング/タイルフロアでのスパイク付き脚部の固定

硬質の床などスパイクが使用できない場合は、スパイクを取り付けずに脚部を使用することも可能です。この場合、脚部を使うには、スパイクのぎざぎざした部分を慎重につかみ、反時計回りに回しスパイクを緩めます。

ポリマーパッドを先に取り除くと、スパイク部分がより簡単につかめます。

パッドは、すでに説明した水平化作業を行う前に再度取り付ける必要があります。



PLW215IIを使用する

PLW215 II基本的な設定はコントロールダイヤルを使用して調節を行うことができます(P5参照)。また、SubConnectアプリケーションを使用して高度な設定を行うことも可能です。初期設定のすべてのプリセットは、EQプロフィール (Music, Movie, Flat, Impact) を除き、同じになっています (14P 参照)。配置が完了しケーブルの接続が完了したら (主電源は最後に接続) PLW215 IIの電源をオンにします。AVレシーバーなどの自動セットアップを行う前に、PLW215 IIのRoom Correction (室内補正EQ) を行う必要があります。

電源 (スタンバイ→電源On)

以下のいずれかの方法でスタンバイ→電源/Onにした場合、すべてのLEDが上部で点灯します。そして順に消灯していき、ボリュームレベルと選択されたプリセット番号のLEDのみが点灯し続けます。LEDの明度は、SubConnectアプリケーションの設定により10%までフェードまたは消灯させることができます。

リモコン:

リモコンのスタンバイボタンを押すと、PLW215 IIはスタンバイ→電源/Onに移行します。2ch/LFE入力信号がない状態が続き、定義されているオートタイマーオフ時間に達すると (デフォルトでは20分)、電源/On→スタンバイに切り替わります。PLW215 IIがリモコンで電源/On→スタンバイに切り替えられた後は、コントロールダイヤルまたはリモコンのみでスタンバイ→電源/Onが可能です。Auto/On機能によるスタンバイ→電源/Onは機能しません。

コントロールダイヤル:

コントロールダイヤルを押す、または回すとPLW215 IIはスタンバイ→電源/Onに移行します。2ch/LFE入力信号がない状態が続き、定義されているオートタイマーオフ時間に達すると (デフォルトでは20分)、電源/On→スタンバイに切り替わります。

Auto/On機能:

2ch/LFE入力信号を受信すると自動的に、スタンバイ→電源/Onに移行します。**注意!! : Auto/Off機能により、電源/On→スタンバイに以降した後のみAuto/On機能は働きます。リモコンで電源/On→スタンバイに切り替えられた場合は、Auto/On機能による電源/On→スタンバイの切り替えは行われません。**

12Vトリガー (12V TRIGGER):

PLW215 IIと12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバー等と接続し、スタンバイ↔電源/Onを接続した機器側で連動して行います。

RS232:

この制御方法はホームオートメーションコントロールで定義できます。制御やプログラム方法の詳細 (P19, P20参照) **注意!! : 通常使用しません。**

Room Correction EQ (室内補正EQ)

PLW215 II は、優れた室内補正アルゴリズムを搭載しています。マイクでサブウーファーから発信されるテストトーンを受信し、部屋に適した音場調整を行います。

注意

Room Correction EQ機能を使用する場合は、RS232ケーブルを接続しないでください。

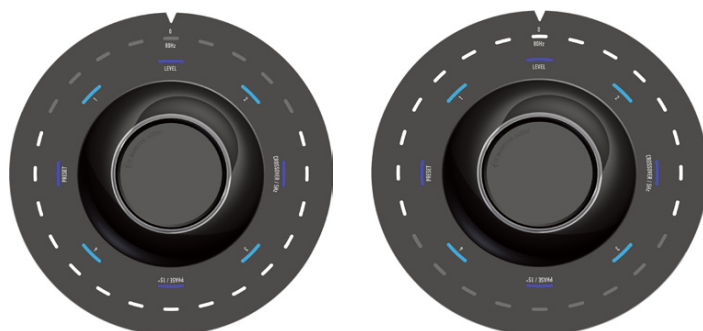
注意

PLW 215 IIを接続するAVレシーバーなどの補正機能を使用する前にPLW 215 II単体でRoom Correction機能による調整を行って下さい。

Room Correction EQを実行するには、フロントパネルのRoom EQセットアップマイク入力端子(P4参照)に付属のマイクを接続し、リスニングポジションにマイクを配置します。レスポンス精度のため、マイクは天井に対してまっすぐ向けて下さい。デフォルト設定ではテストトーンを2回再生して補正を行います。SubConnectアプリケーションの「Tools>Room Correction」で変更することができます。

マイクをセットし、カウントダウンが始まるまでコントロールダイヤルを長押しします。すると、すべての外側の (メインインジケータ) LEDが点灯し点滅しますので、点滅を確認したらダイヤルを離します。最初のテストトーン後には、20秒間ほど一時停止します。

テストトーンを設定回数分再生されるまで待ちます。テストが成功/失敗は下図の様に表示されます。



テストに成功

テストに失敗

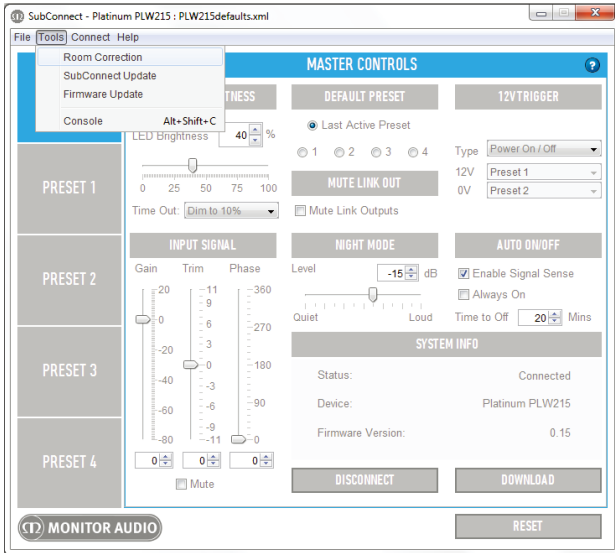
注意

スイープがマイクなしで行われると、エラーが表示され、すべてのLEDが点灯します。このエラー状態からリセットするには、ダイヤルを回してください。

Room Correction EQ（室内補正） にSubConnectを使用する

SubConnectアプリケーションで室内補正を実行するには、以下の手順に従ってください。アプリケーションのインストールについては、P9を参照してください。

1. PLW215 IIを電源/Onにし、USBケーブルでPCに接続します。その後SubConnectをPCで起動し「Tools>Room Correction」でクリックします。



2. 実行するサイクル回数（デフォルトでは2）を選択し「RUN」ボタンをクリックします。「RUN」ボタンが押されるとすぐに、テストトーンが開始されます。最初のテストトーン後には、20秒間ほど一時停止します。

AVシステムの推奨設定

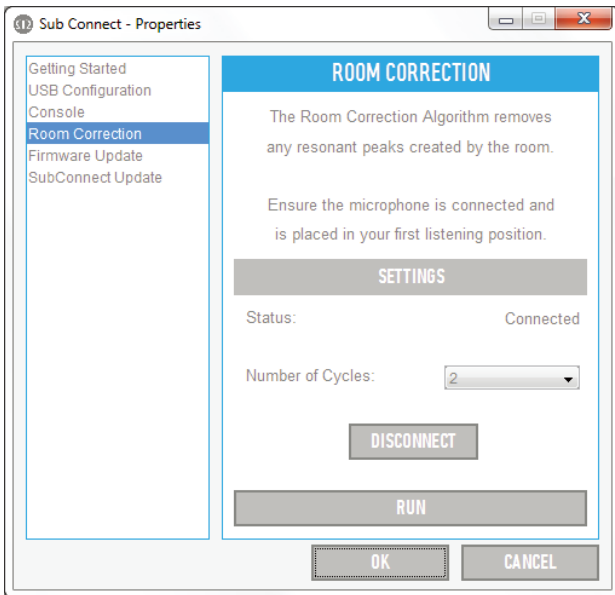
PLW215 IIをAVシステムで使用する場合、最初にプリセット2(Movies) または 4(Impact)を使用することをお勧めします。その後、必要に応じてサウンドの微調整を行うことができます（Room Corection/EQ設定の調整 P15参照）。LFE入力を使用する際には、クロスオーバー周波数調整機能は機能しません。

Stereo（2ch）の推奨設定

PLW215 IIをステレオシステムで使用する場合、最初にプリセット1 (Music) または 3 (Flat)を使用することをお勧めします。その後、必要に応じてサウンドの微調整を行うことができます（Room Corection/EQ設定の調整 P15参照）。プリセットの選択を終えたら、クロスオーバー周波数の調整を行い、お使いのメインスピーカーとシームレスに再生出来るよう調整します。聞きなれた音楽を数曲再生して、調整を行うことをお勧めします。

注意

コントロールダイヤルでクロスオーバー周波数、フェイズ（位相）、プリセットの設定を行った場合は、Auto/Off機能やリモコンによりスタンバイモードに切り替えられた場合のみ設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチにより、主電源がオフに切り替えられた場合は設定は破棄されます。



テストトーンを設定回数分再生されるまで待ちます。テストが成功すると、LEDは「笑顔」の状態点灯します。失敗すると、「泣き顔」の状態点灯します（P7参照）。

SubConnectアプリケーション

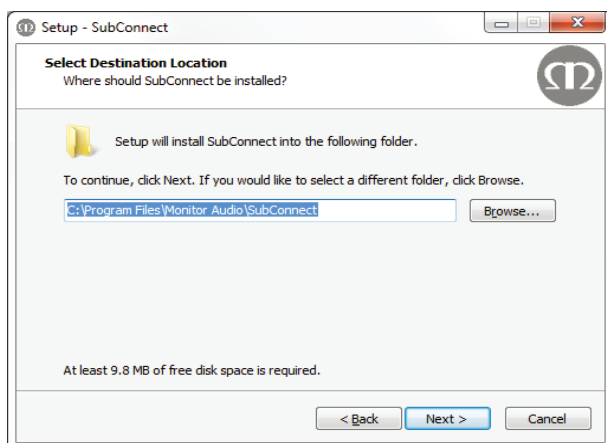
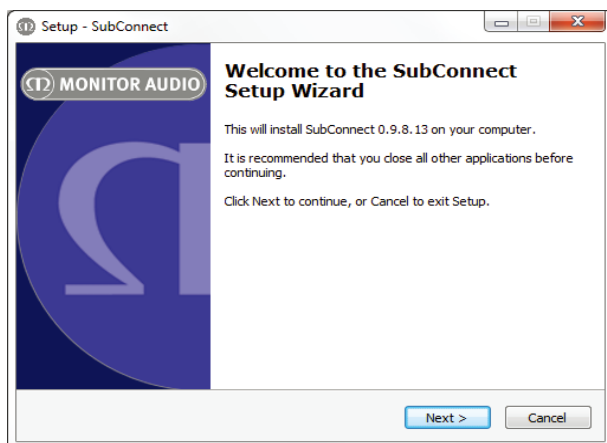
アプリケーションについて

SubConnectアプリケーションはより最適なサウンドを実現できるように、コントロールダイアルでのクロスオーバー周波数、フェイズ（位相）、プリセット設定よりさらに詳細な調整が可能です。SubConnectアプリケーションの設定は、オートタイマーオフやリモコンによりスタンバイモードに切り替えられた場合のみ設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチにより、主電源がオフに切り替えられた場合は設定は破棄されます。

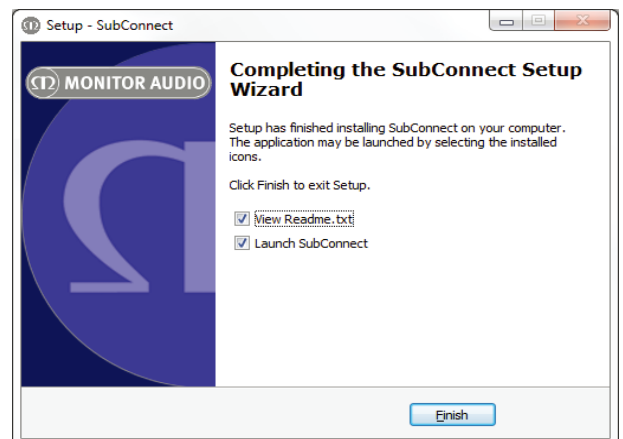
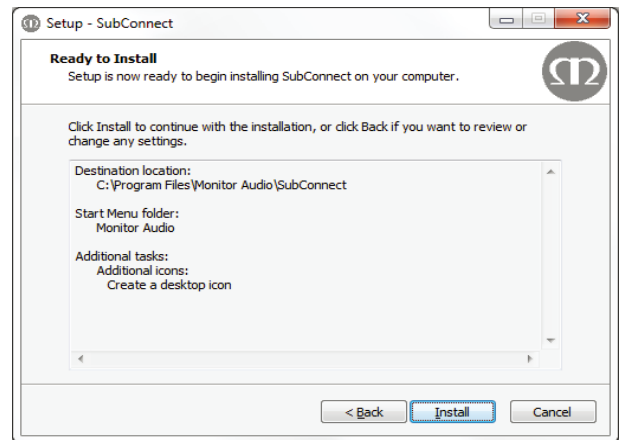
インストール

SubConnectは製品付属のUSBメモリーに保存されております（SubConnect_v1-0.zip 対応OS: Windows Vista, 7, 8, 8.1/32bit_64bit）。以下の手順に沿ってインストールを行います。

1. SubConnect_v1-0.zipを解凍し、解凍後フォルダのsetup.exeを起動し、SubConnectをインストールします。下図の用にセットアップウィザードが開きます。「Next (次へ)」を押し、ライセンスへの同意を承認します。次に、インストールする場所を設定し、画面の説明に従います。



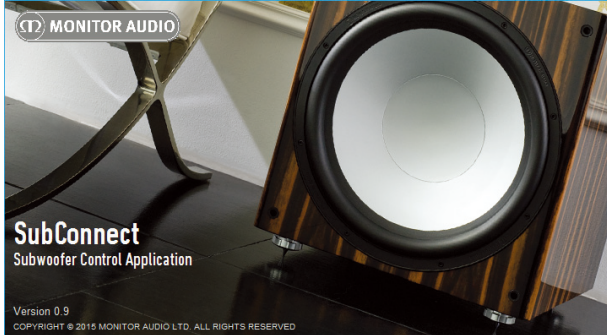
2. ダイアログが表示されたら、「Install (インストール)」をクリックし、プログレスバーが100%に達するまで待ちます。完了したら、「Finish (終了)」をクリックします。SubConnectのインストールはこちらで完了です。SubConnectがPCのアプリケーションの中に表示されます。



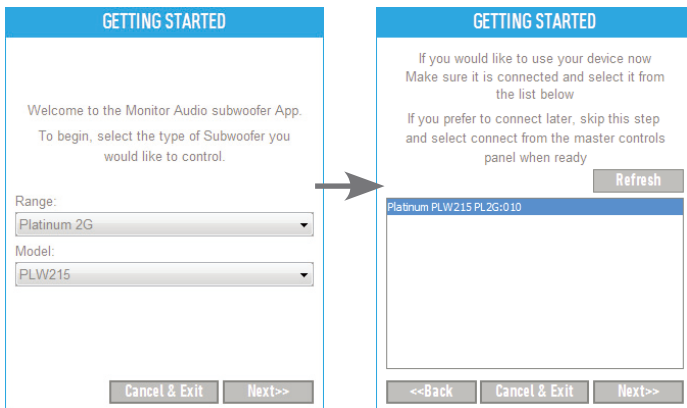
初期セットアップ

SubConnectのインストールが完了したら、SubConnectを起動する前に、PLW215 II電源をOnに切り替えて、PLW 215IIとPCをUSBケーブル (A-B type) で接続します。接続するとドライバーが自動的にPCにインストールされます。

1. SubConnectアプリケーションを起動してください。



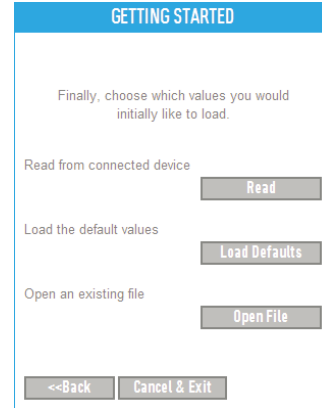
2. 初めて起動する場合には、ウィザードが自動的に開始します。以下のように、「Range」ドロップダウンリストでPlatinum 2Gを、「Model」にはPLW215 IIを選択します。「Next (次へ)」ボタンを押すと、Platinum PLW215 IIが表示されます。これを選択して「Next (次へ)」ボタンを再び押します。



注意

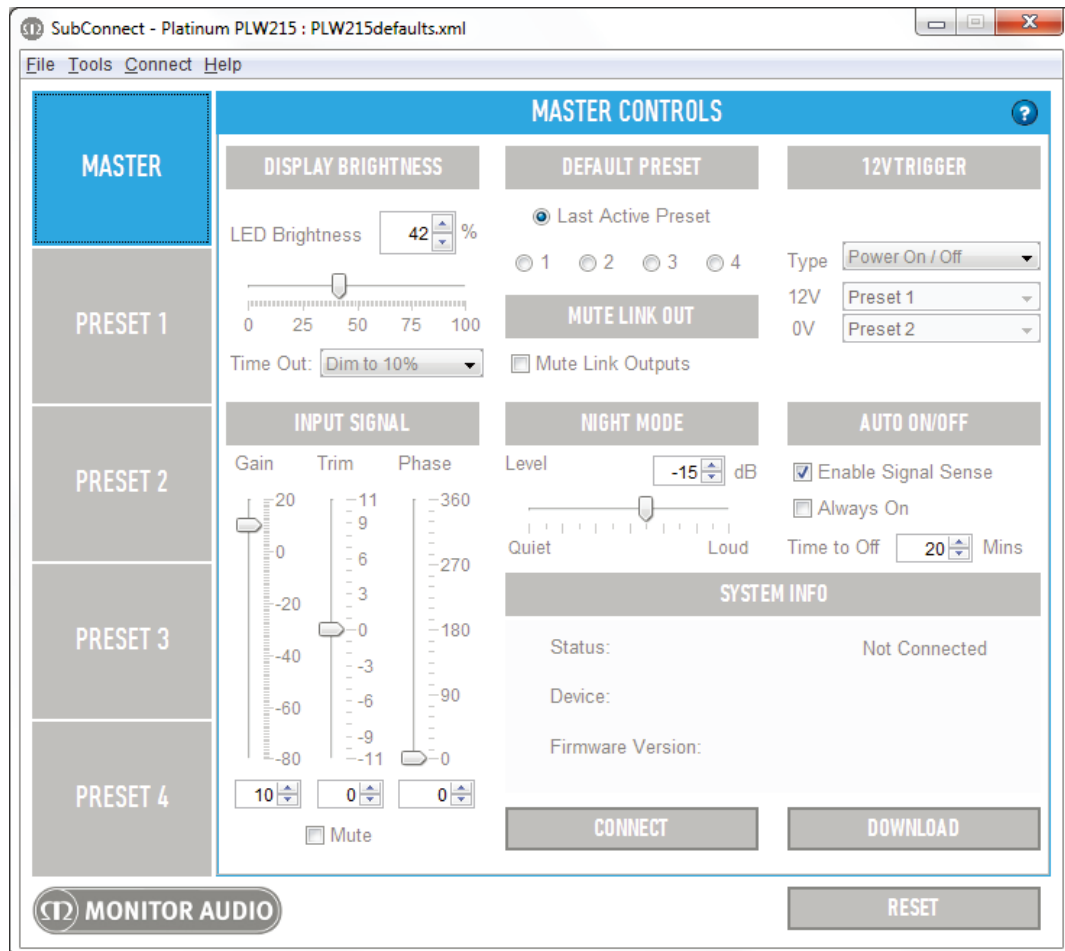
ウィザードが正常に起動しない場合は、PLW215の電源がOnになっているか確認してください。スタンバイモードになっていると検出されません。また、それでもうまくいかない場合はUSBケーブルを挿し直してください。

3. 次に、選択可能なオプションが3つ表示されます。「Read (読み込み)」ボタンをクリックしてPLW 215 IIに設定済みの現在設定でSubConnectアプリを開始するか、「load defaults (PLW 215 IIデフォルト設定の読み込み)」または、事前に保存した設定の読み込み (拡張子xml) でSubConnectのセッティングを始めることができます。初めてPLW 215 IIをセットアップする場合には、「load defaults」を推奨します。これはPLW215 IIの工場出荷時の設定です。



次回にSubConnectを起動する時は、この初期セットアップ/ウィザードページに移行することなく起動し、「Master Controls」ページから起動します (P11 参照)

MasterControls



SubConnectアプリケーションを使用することで、PLW215IIの幅広い各種制御や設定が可能になります。以下では、各機能とその動作についての説明です。

DISPLAY BIRGHTNESS

LED Brightness - PLW215 IIのLEDの明るさを調整することができます (0 - 100%)。スライダーを使用して調整を行います。カーソルをスライダー上に移動させ、マウスのホイールを使用してスクロールアップおよびダウン、または上下の矢印をクリックします。

Time Out - 2分間のアイドル時間後にLEDを10%の明るさにしたり (Dim to 10%) 完全にオフ (Fade to Black) に設定します。

DEFUALT PRESET

PLW215 IIが前回オフにされる前のプリセットで開始するか (Last Active Preset) 特定のEQプリセットで起動するか (1~4) を選択します。

MUTE LINK OUT

2chステレオ/LFE出力 (スルー) をミュートします。

12V TRIGGER

①Type - Power On/Off

12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバー等と接続し、スタンバイ⇄電源/On切替を接続した機器側で連動して行います。AVアンプ/レシーバーとPLW215 IIを、付属のTriggerケーブルで接続してください。12V Triggerケーブルを接続しType - Power On/Off選択時は、Auto/Off機能は機能しません (P12参照)。

②Type - Preset X/Y

12V Triggerケーブルが接続されている時 (12V) とされていない時 (0V) のEQプリセットを設定できます。

■12V (Preset 1~4) - 12V Triggerケーブルが接続されている時のEQプリセットを設定します。

■0V (Preset 1~4) - 12V Triggerケーブルが接続されていない時のEQプリセットを設定します。

Preset X/Y選択時は、2ch/LFE入力信号を受信すると自動的にスタンバイ→電源/Onに移行するAuto/On機能が機能します (P12参照)。

INPUT SIGNAL

Gain (ゲイン)、Trim (トリム/※ボリュームレベル)、Phase (フェーズ) 3つのパラメータを調整します。これらはすべて、スライダ、マウスのスクロールホイールや、上下ボタンのクリック、カーソルを移動しての値の入力などで設定可能です。

また下部の「Mute」にチェックを入れることにより、出力のミュートも行えます。

「Gain」マスター出力レベル (内蔵パワーアンプの出力レベル) を調整します。これは、このSub Connectのみで設定可能です (-80 ~ 20)。通常これはゼロにしたままにし、Trimコントロールを使用して微調整を行うことをお勧めします。それでも十分な制御ができない場合には、ゲインを調整し、トリムコントロールで再び微調整を行ってください。

「Trim」ボリュームレベルを調整します。これは、SubConnect, コントロールダイヤルおよびリモコンで調整が可能です (-11dB ~ +11dB)。このレベルは、コントロールダイヤル周辺のLEDにより表示されます。

「Phase」フェーズ (位相) を調整します。これは、SubConnect, コントロールダイヤルおよびリモコンで調整が可能です (0~360° / 15° 単位)。このレベルはコントロールダイヤル周辺のLEDにより表示されます。

NIGHT MODE

ダイナミックレンジを低減しつつ最適なバランスで楽しめる、夜間のリスニングに向けたナイトモードのレベルを設定します。ナイトモードが有効化された際の減衰量をスライダーで調整します。また、プリセットパネルで有効・無効を選択できます (P13参照)。

SYSTEM INFO

PLW215 IIの情報が表示されます。Status (接続済み、未接続、ブートローダーモード)、デバイス (モデル名)、ファームウェアのバージョンがこのウィンドウに表示されます。

CONNECT (設定の反映/PLW215 II→Sub Connect)

接続したPLW 215 IIの設定を、Sub Connectに読み込ませます。PLW 215 IIの設定を読み込む場合、データを読み込む前にSub Connectで行った変更はすべて失われ、読み込んだ設定で上書きされます。

DOWNLOAD (設定の反映/Sub Connect→PLW215 II)

Sub ConnectからPLW215 IIIに、編集集中のパラメータを反映・保存させます。成功時には成功を示すメッセージが表示されます。**「DOWNLOAD」を行わないと、SubConnectの設定はPLW 215 IIIに反映されません。**

RESET (SubConnectパラメーターのリセット)

すべてのSub Connectのパラメータをデフォルト設定にリセットします。

AUTO ON/OFF

2ch/LFE 入力信号を受信すると自動的に、スタンバイ→電源 /On に移行する①**Auto/On 機能**の On/Of (Enabled Signal Senses) と、2ch/LFE 入力信号がない状態が続き、定義されているオートタイマーオフ時間に達すると (デフォルトでは 20 分)、電源 /On→スタンバイに切り替わる②**Auto/Off 機能**の On/Off (AlwaysOn) 及び Auto/Off が機能するまでの時間を設定します。

注意!! : Auto/On 機能は、12V Trigger ケーブルが接続されたいない場合、または 12V Trigger ケーブルが接続されているが「12V Trigger」設定 /Type が「Preset X/Y」に設定されている場合に、オートタイマーオフにより電源 /On→スタンバイに移行した後のみ機能します。リモコンで電源 /On→スタンバイに切り替えられた場合は、Auto/On 機能は機能しません。

①Enabled Signal Senses (Auto/On 機能の On/Of)
チェック有→Auto/On 機能 On

チェック無→Auto/On 機能 Off

②AlwaysOn (電源 /On→スタンバイに切り替わる Auto/Off 機能の On/Off)
チェック有→Auto/Off 機能 Off

チェック無→Auto/Off 機能 On

※Time to Off は、5 ~ 240 分間に設定することができます (5 分単位)。上下の矢印でオートタイマーオフが機能する時間を設定します。

SAVE (設定の保存)

Sub Connect の一連の設定をファイルとして (拡張子 xml) PC 上に保存します。上部メニューバーの Files/Save (保存 / 開いているファイルがあれば上書き) または Save as (名前をつけて保存) を選択し、PC の任意のフォルダに任意のファイル名で保存します。保存したファイルは上部メニューバーの Files/Open で開くことができます。

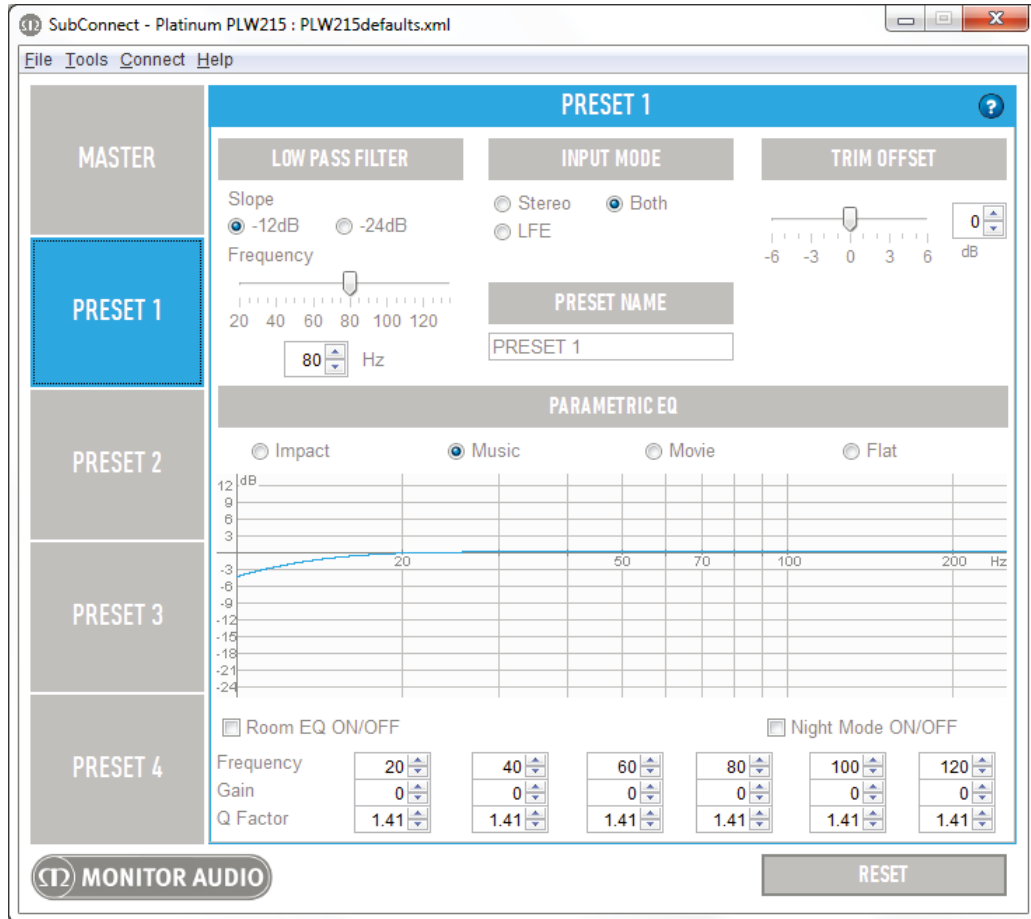
注意

Sub Connect の各パラメーターの設定に変更を行い、保存することなく「CONNECT」から PLW215 II の設定を読み込むと、Sub Connect で編集集中の設定は失われます。

注意

PLW215 III に保存された SubConnect の設定は、Auto/Off 機能やリモコンにより **スタンバイモードに切り替えられた場合のみ** 設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチにより、主電源がオフに切り替えられた場合は、PLW215 III に保存された SubConnect の設定は破棄されます。

Presets



PLW215IIIには、4つの独立したプリセットがあります。これらはお好みでセットアップすることができます。プリセットは、コントロールパネル、リモコン、RS232コントロールから選択可能です。

LOW PASS FILTER

カットオフ周波数（20～135Hz/5Hz単位）やクロスオーバースロープ（12dBもしくは24dB）を設定します。ポート型スピーカーには、毎オクターブに24dBの低周波数ロールオフがあります。密閉型スピーカーには、毎オクターブに12dBのロールオフがあります。最適な統合を実現するためにも、サブウーファースロープをお使いのスピーカーのロールオフと一致するように設定してください。カットオフ周波数は、コントロールダイヤルでも設定可能です。LFE入力を接続する場合、Low Pass Filter（P13参照）調整機能は機能しません。

INPUT MODE

このプリセットでアクティブな入力を選択します（Stereo/RCA、Both/LFE、RCA両方、LFE）。たとえば、LFEのみを選択する場合、LFE信号のみが出力されます。

PRESET NAME

プリセット名は、使いやすくするため名称を自由に設定できます。

TRIM OFFSET

Master Controls（P11参照）の「Gain」マスター出力レベル（内蔵パワーアンプの出力レベル）や「Trim」ボリュームレベルに加えて各プリセットに「Trim」ボリュームレベルがカスタマイズ可能です（-6～6dB）。

PARAMETRIC EQ

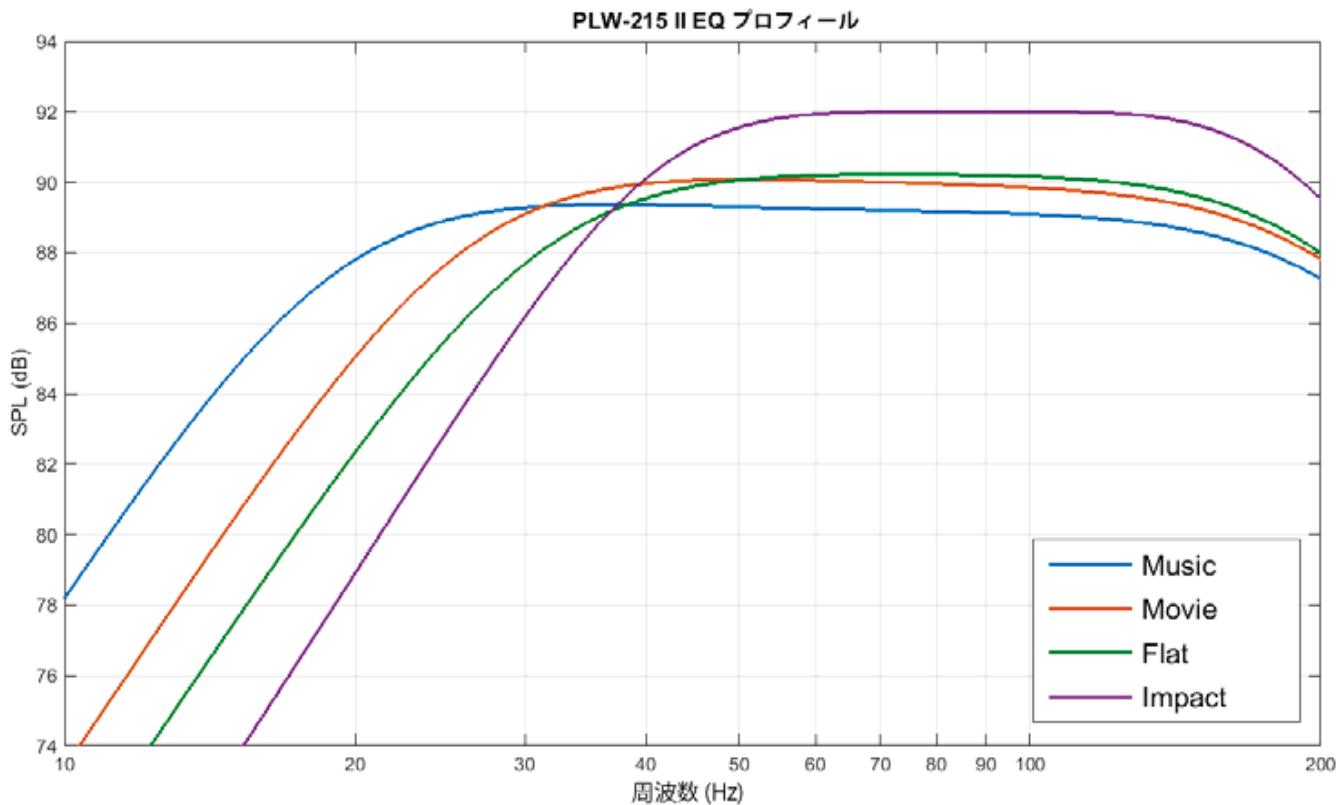
ここでは、特定のプリセットに使用するイコライゼーションのタイプを選択することができます。工場出荷時のデフォルトモードは4種類（Impact、Music、Movie、Flat）あり、またお好みに合わせてカスタマイズすることもできます。独自のカスタムEQの作成時には、「Flat」から開始することをお勧めします。また、お気に入りのデフォルトEQで始め、リスニングを行う部屋のレスポンスを補う調整を行うこともできます。この設定は、上下の矢印を使用して行えます。また下部のチェックボックスによりRoomCorrection（室内補正/P9参照）およびNightModeのOn/Offを切り替えることができます。

Frequency:調整を行う周波数を選択します。

Gain:選択された周波数のゲイン（出力レベル）を調整します。

Q-Factor:Q値（EQを受ける範囲）を調整します。

EQ Profiles



Impact:強力なインパクトを生み出すために、最も効率的でナチュラルなドライバー駆動を実現するモードです。

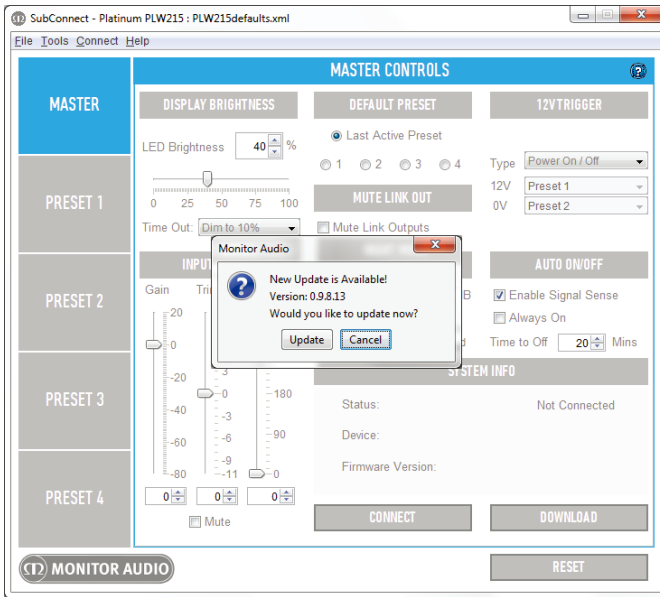
Flat:最もフラット特性を持つモードです。カスタムEQプロフィールを作成する時はFlatをベースに調整することを推奨します。

Movie:映画推奨。優れた感度を持つフラットなレスポンスですが、映画音楽のバランスを生み出すための、若干広い再生帯域が設定されています。

Music:音楽推奨。再生帯域が広く設定され低周波数を最大限に再生し、各楽器の周波数を最大限再現します。

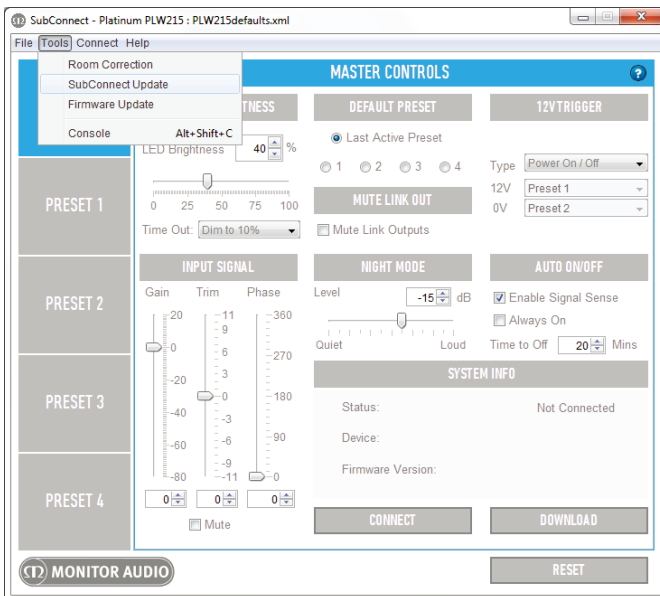
SubConnectの更新

SubConnectは起動されるたびにファームウェアの更新を確認します。更新が可能であれば、以下の画面で通知されます。「update」をクリックし、画面のインストール指示に従ってください。

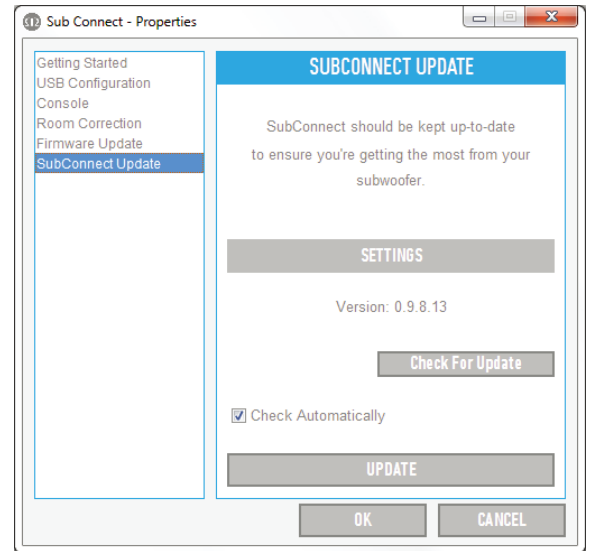


手動で更新を確認するには、以下のステップに従ってください。

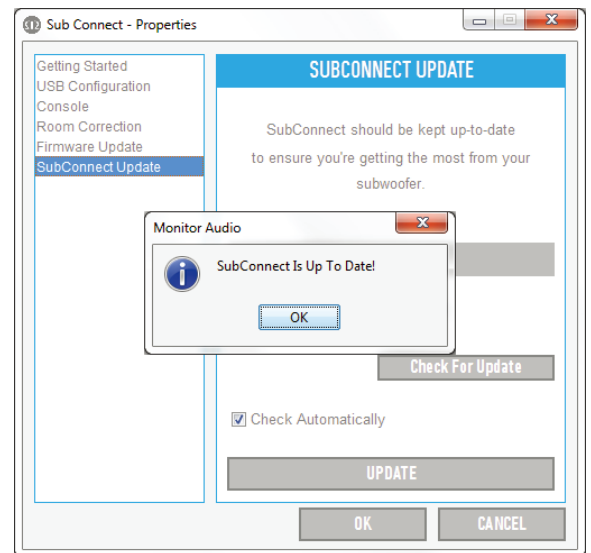
1. SubConnectアプリケーションを起動します。
2. Tools > SubConnect Update」をクリックします。



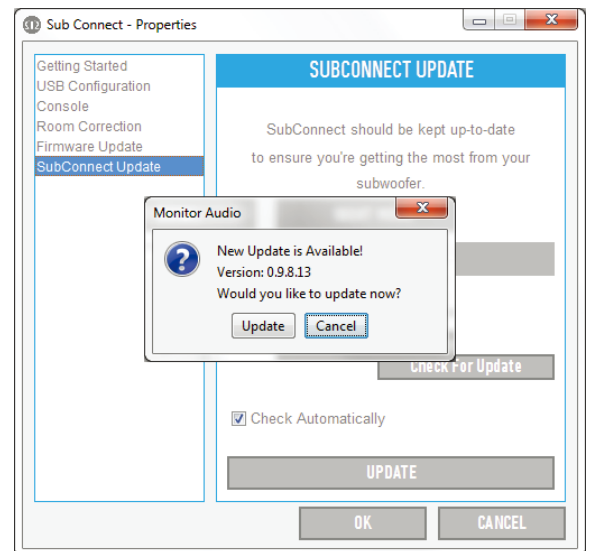
3. 「Check for update」をクリックします。



4. ファームウェアが最新の場合には、以下の画面のように通知されます。

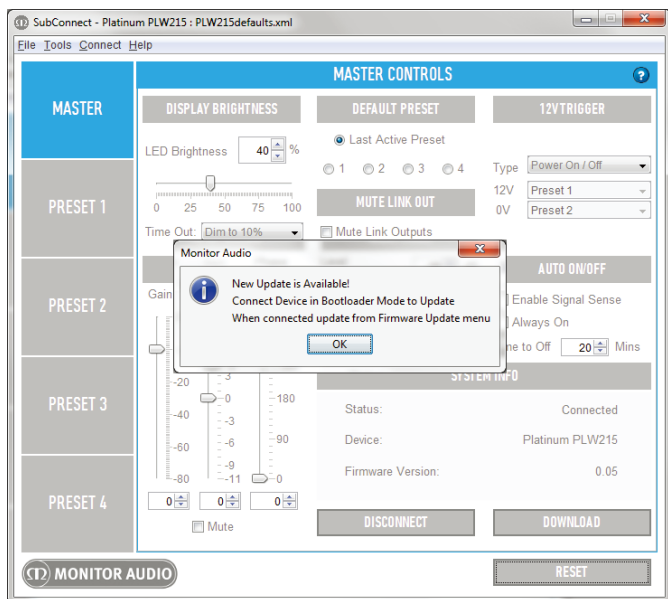


5. 新しいファームウェアがある場合には、以下の画面のように通知されます。画面の指示に従ってください。



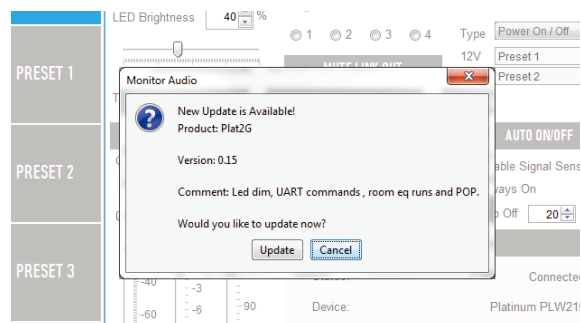
PLW 215 IIのファームウェアの更新

SubConnectアプリケーションが読み込まれ、自動検出または手動で「CONNECT」を押して、PLW215 IIとの接続が確立されると、ファームウェアの更新が毎回確認されます。更新が検出されると、以下の画面が表示されます。PLW 215 IIのファームウェアを更新するには、ブートローダーモードにする必要があります。

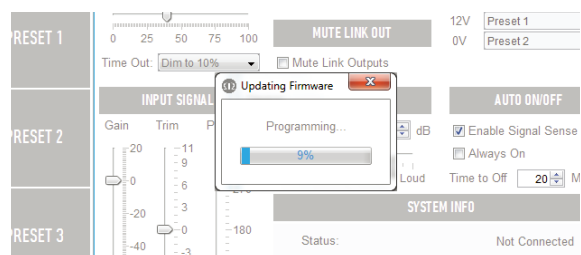


自動更新

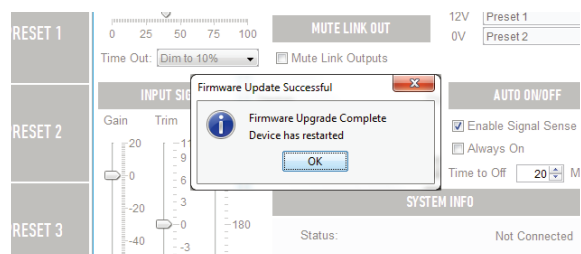
1. ブートローダーモードにした後、更新を行うには「OK」をクリックします。製品、バージョン番号、変更の基本的な概要を示した新たなポップアップが表示されます。



2. Update (更新)をクリックすると、更新のステータスを示したプログレスバーが表示されます。



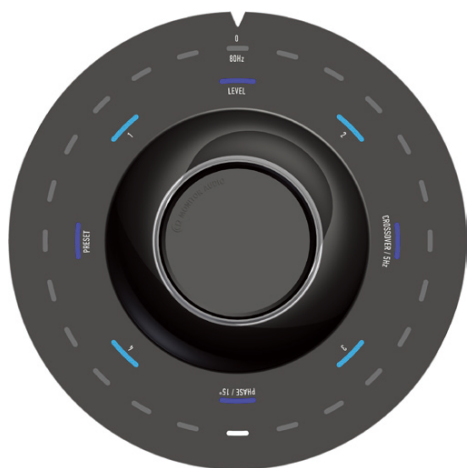
3. 更新が完了すると確認が表示され、PLW215IIが再起動します。再起動後「OK」をクリックした時に、2ch/LFE入力信号が送られている場合には、自動的に起動します。信号がない場合は信号を送信するか、コントロールダイヤルを回転させて起動させる必要があります。



BootloaderMode (ブートローダーモード)

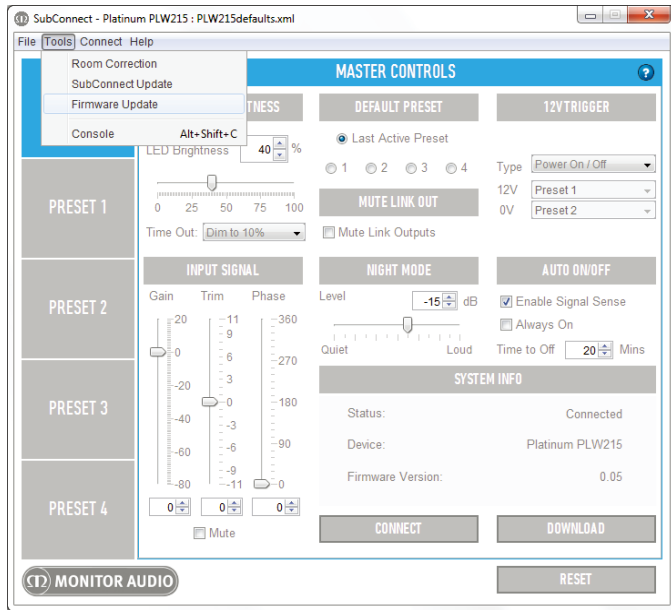
PLW215 IIをブートローダーモードに切り替えるには、最初にリアパネルの電源スイッチをOffにし、主電源をOffにします。その後、コントロールダイヤルを押しのままの状態、PLW 215 IIの主電源をOnに切り替えます。

内側の青および青緑のLEDと外側の白いLEDが、「Phase」で終了する追跡シーケンスで点灯します(下図を参照)。これでブートローダーモードに切り替わりました。

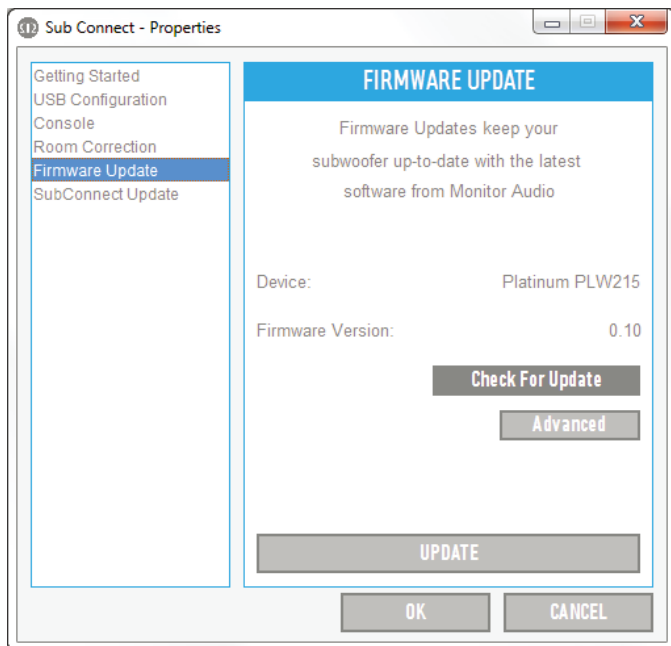


手動による更新

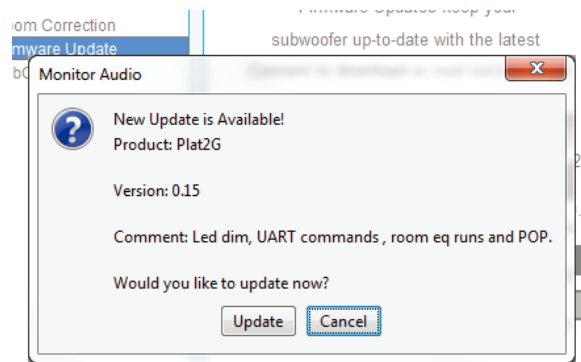
自動更新が機能しない場合や手動で更新を確認したい場合には、アプリケーションを起動してPLW215 IIをオンに切り替え、接続させます。その後、「Tools > Firmware Update」をクリックします。



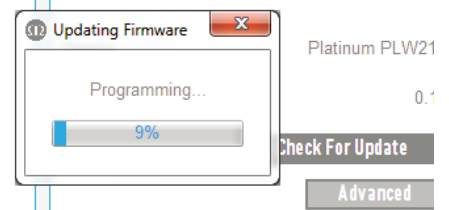
1. 「Check for update (更新の確認)」をクリックします。PLW215 IIが最新の状態である場合には、その旨が通知されます。新しいファームウェアがある場合は、その旨が通知されます。



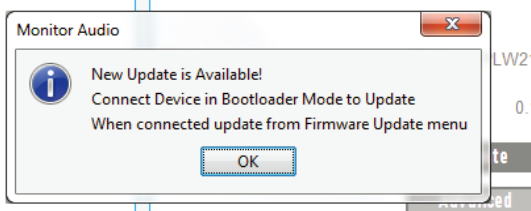
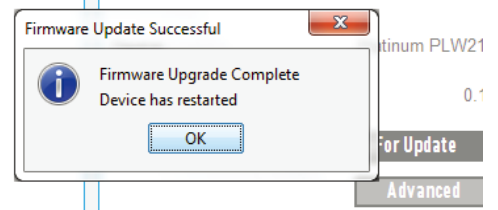
2. 新しいファームウェアがある場合には、PLW215 IIをブートローダーモードに切り替えるように求めるダイアログが表示されます (P16参照)。ブートローダーモードにした後、PCとPLW215 IIへの接続を再確立したら、「Tools > Firmware Update」を再びクリックします。すると、下図の画面が表示されるので「Update (更新)」をクリックします。



3. プロGRESSバーが表示され、更新のステータスを表示します。



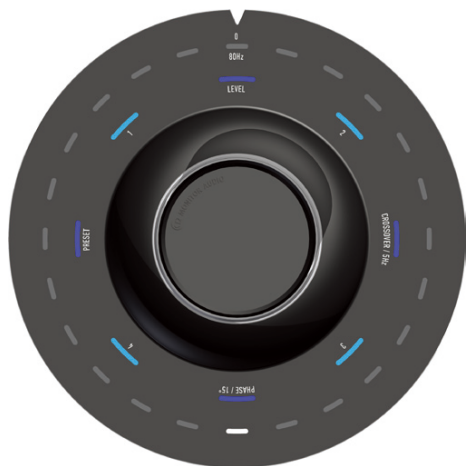
4. 更新が完了すると、確認が表示され、PLW 215 IIが再起動します。再起動後「OK」をクリックした時に、2ch/LFE入力信号が送られている場合には、自動的に起動します。信号がない場合は信号を送信するか、コントロールダイヤルを回転させて起動させる必要があります。



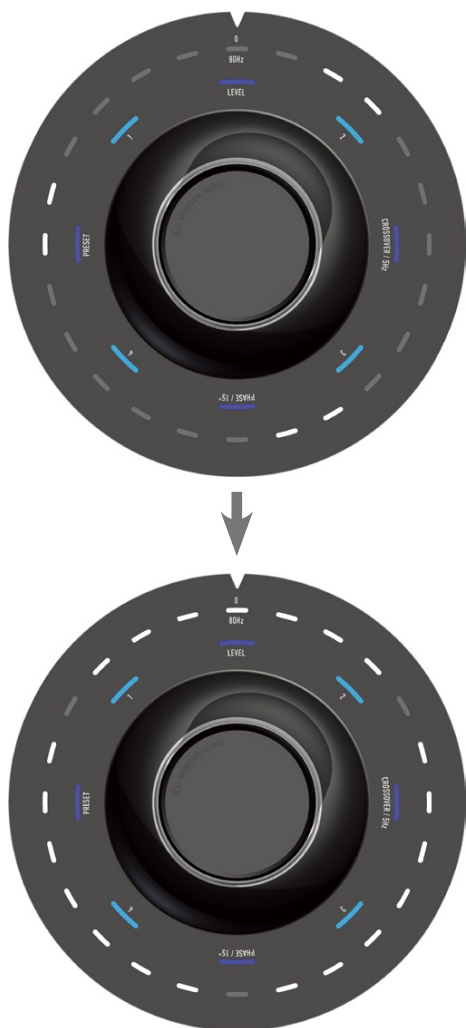
ファクトリーリセット

場合によって、ファクトリーリセットを行う必要があることがあります。これを行うには、以下に従ってください。

1. ブートローダーモードに切り替えます (P16参照)。
2. 下のLEDパターンで示されているブートローダーモードに切り替わったら、コントロールダイヤルを押し続けます。



3. コントロールダイヤルを押し続けたままにすると、LEDが以下のパターンでカウントダウンを行い、2度点滅して終了します。点滅したら、コントロールダイヤルを離します。



4. リセットが完了すると、PLW215 IIIはスタンバイモードに切り替わります。

お手入れとメンテナンス

キャビネットは、やわらかい布または、超極細繊維の布、家具用艶出しを使用した通常のクリーニングを行うことで高い光沢性を保つことができます。ドライブユニットは、通常以上のクリーニングが必要な場合に、湿った布でのみクリーニングを行うようにしてください。ラッカー仕上げのキャビネット用にMonitor Audio/Lacquer Polish、皮革製のバッフル用にMonitor Audio/Leather Cleanerを使用することで最適なメンテナンスが可能です。

保証

Monitor Audioの日本国内における正規輸入品の保証は、株式会社ナスペックが行います。詳しくは株式会社ナスペックのHP/サポートページ (<http://naspecaudio.com/support/>) をご確認ください。修理の際は、販売店または株式会社ナスペックにお問合せください。

注意! 以下P19, P20の項目は、ユニバーサルなりモコンまたは、RS232ポートを経由してPLW215 IIを制御する方法です。通常使用しません。

赤外線リモートコード

PLW215 IIIには、ユニバーサルなりモコンで使用するためのリモコンコマンドがあります。また、付属のリモコンにはない、追加的なコマンドもあります。コマンドは、標準のNECプロトコルを使用しています。

デバイスのアドレス:0x7D

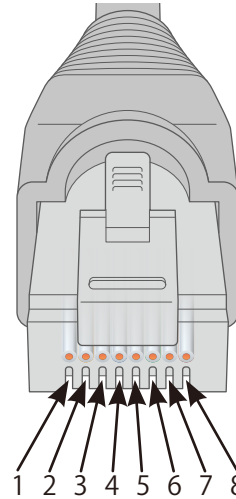
POWER	0x48	PRESET_SELECT	0xB8
ON	0xd1	RIGHT_BUTTON	0xe0
OFF	0xf1	LEFT_BUTTON	0xc0
MUTE	0x78	PLAY_PAUSE	0xd8
VOL_UP	0xa0	TOGGLE_NIGHTMODE	0xA8
VOL_DOWN	0x08	NIGHTMODE_ON	0xd2
PRESET_1	0x28	NIGHTMODE_OFF	0xf2
PRESET_2	0x58	ROOMEQ_ON	0xd3
PRESET_3	0x88	ROOMEQ_OFF	0xf3
PRESET_4	0xB8	DISPLAY_ON	xd4
TOGGLE_SOURCE	0x00	DISPLAY_OFF	0xf4
VOLUME_SELECT	0x28		
LPF_SELECT	0xA8		
PHASE_SELECT	0xD8		
DISPLAY	0x30		
ENCODER	0xD0		

RS232

PLW215 IIIは、アンプパネル上のRS232ポートから制御できます。PLW215 IIIは、文字列をRS232コネクタに送信することで制御できます。

RS232配線構成

RS232通信ソケットは、標準のRJ45コネクタを使用しています。これは、アンプパネルおよび以下で示されているように配線接続を行う必要があります。



1. 未使用
2. 未使用
3. 設置
4. 設置
5. Rx
6. Tx
7. 未使用
8. 未使用

RS232通信セットアップパラメータ

ボーレート:57600
 データサイズ:8
 パリティ:なし
 ストップビット:1
 ハンドシェイキング/フロー制御:なし

コマンドプロトコル

PLW215 IIIに送信されるコマンドの各文字列は、同じ構造のプロトコルに従う必要があります。これらのコマンドは、コマンドリストで詳細に示されています。RS232コマンドでPLW215 IIを制御するには、特定の文字列（コマンド文字列を形成）を、RS232ターミナルから送信する必要があります。各コマンドの文字列は、以下の文字の両方で終了する必要があります。

<CR> (ASCIIキャリッジ・リターン文字、13進数)

<LF> (ASCII改行文字、10進数)

これらは通常、RS232ターミナル設定にあります。PLW215 IIIは、SETコマンドにより変更された更新済み情報またはGETコマンドで要求された情報を持つ有効なコマンドに反応します。PLW215 IIIが、無効なコマンドを受信した場合には、**ERROR<CR><LF>**を返します。

注意:スタンバイ中のSET_O以外のSETコマンドは、無効とみなされます。

コマンドリスト

以下のGETコマンドは、PLW215 IIから情報を取得するために使用されます。

コマンド	説明	PLW215からの応答
GET_O	電源 (アクティブ/スタンバイ)	POWER_ON:X<CR><LF> Xには、1 (アクティブ)または0 (スタンバイ)
GET_P	フェーズ (0 - 345)	PHASE:X<CR><LF> Xには、0 - 345の範囲の値
GET_M	ミュート	MUTE_ON:X<CR><LF> Xには、1 (ミュート)または0 (ミュートなし)
GET_L	リンクアウトミュート	MUTE_LINK_OUT_ON:X<CR><LF> Xには、1 (リンクアウトミュート済)または0 (リンクアウトミュートなし)
GET_S	プリセットの選択 (1~4)	PRESET:X<CR><LF> Xには、1 - 4の範囲の値
GET_D	ディスプレイの表示 (ON/OFF)	DISPLAY_ON:X<CR><LF> Xには、1 (ディスプレイオン)または0 (ディスプレイオフ)
GET_T	音量 (トリムレベル/-11 - 11)	TRIM_LEVEL:X<CR><LF> Xには、-11 - 11の範囲の値
GET_R	Room EQ (ON/OFF)	ROOM_EQ:X<CR><LF> Xには、1 (Room EQオン)または0 (Room EQオフ)
GET_N	Night Mode (ON/OFF)	NIGHT_MODE:X<CR><LF> Xには、1 (Night Modeオン)または0 (Night Modeオフ)

以下のSET コマンドは、PLW215 II の操作を制御します。

コマンド	説明	PLW215からの応答
SET_O:1	電源オンに切り替え	POWER_ON:1<CR><LF>
SET_O:0	スタンバイに切り替え	POWER_ON:0<CR><LF>
SET_P:X	フェーズ設定を選択 Xには、0 - 345の範囲の値が入ります。	PHASE:X<CR><LF> Xには、0 - 345の範囲の値が入ります。
SET_M:1	ミュート出力	MUTE_ON:1<CR><LF>
SET_M:0	ミュート解除出力	MUTE_ON:0<CR><LF>
SET_L:1	Mute Link Out出力	MUTE_LINK_OUT_ON:1<CR><LF>
SET_L:0	Unmute Link Out出力	MUTE_LINK_OUT_ON:0<CR><LF>
SET_S:X	プリセットの選択 Xには、1 - 4の範囲の値が入ります。	PRESET:X<CR><LF> Xには、1 - 4の範囲の値が入ります。
SET_D:1	ディスプレイをオンに切り替え	DISPLAY_ON:1<CR><LF>
SET_D:0	ディスプレイをオフに切り替え	DISPLAY_ON:0<CR><LF>
SET_T:X	音量トリムレベルを設定 Xには、-11 - 11の範囲の値が入ります。	TRIM_LEVEL:X<CR><LF> Xには、-11 - 11の範囲の値が入ります。
SET_R:1	Room EQをオンに切り替え	ROOM_EQ:1<CR><LF>
SET_R:0	Room EQをオフに切り替え	ROOM_EQ:0<CR><LF>
SET_N:1	Night Modeをオンに切り替え	NIGHT_MODE:1<CR><LF>
SET_N:0	Night Modeをオフに切り替え	NIGHT_MODE:0<CR><LF>

トラブルシューティング

PLW215 IIがLEDでエラーコードを示し（外側の白いLEDで特定個所を点灯させつつ、内側円状の青色LED全てが点灯）正常に起動しない時は以下の手順を行います。

1. リアパネルの電源スイッチで主電源をOffにし10分放置後、再度主電源をOnし、スタンバイモード→電源/Onの操作を行ってください。それでも同じパターンが表示される場合には、ファクトリーリセットを行ってください。それでもなお問題が解決されない場合には、SubConnectアプリケーションからPLW215 IIでファームウェアの再読み込みを行ってください。

上記の手順で問題が解決できない場合には、販売店または株式会社ナスペックにお問合せください。

Specifications

PLW215 II	
形式	アンプ内蔵・密閉型サブウーファー/25mm厚 MDFキャビネット
ユニット	2x380mm C-CAMサブウーファードライバー, 76mm Black CEDコーティング エッジワウンド・ボイスコイル, トリプル・サスペンション
内蔵アンプ	RMS 1400W, 最大2000W, DSPコントロール Class-D デュアルアンプデザイン
下限周波数 (-6dB - IEC 268-13)	-3dB @ 23Hz / -10dB @ 18Hz (自由音場) ※デフォルトプリセット: Music, -3dB @ 19Hz / -10dB @ 16Hz (室内) ※デフォルトプリセット: Music, 低周波保護フィルター (-3dB @ 12Hz)
上限周波数	-3dB @ 150Hz
DSP	172MHz DSP Core, ダイナミックレンジ/139dB 56bit
AD/DA コンバーター	Wolfson (Cirrus Logic) WM8786 ADC, 48KHz/24bit WM8740 DAC
グローバル設定 (Sub Connect)	ディスプレイの明るさ調整(0~100%), プリセット機能, リンク出力のミュート(On/Off), 入力ゲイン(マスター/-80~+20dB, トリム/-6~+6dB, ミュート), 位相(フェイズ/0~360°, 15°単位で調整可), ナイトモード設定(-2~-20dB), オートパワーOn機能(On/Off), オフタイマー機能(5~240分)
ユーザープリセット (Sub Connect)	プリセット名, LPF周波数(20~135Hz, 5Hz単位で調整可), LPFスロープ(-12または-24dB/Oct), 入力(Stereo, LFE, Stereo/LFE 両方), トリムオフセット(-6~+6dB), EQモード(Impact, Music, Movie, Default), ユーザーEQ (EQモード時に適用される6つの調整可能なフィルター), ルームEQ (On/Off), ナイトモード(On/Off)
イコライザー (Sub Connect)	デフォルト設定(Flat, Music, Movie, Impact) ※各プリセットに6つの独立したゲインオフセットが付いたEQフィルター機能
ナイトモード	On(-2~-20dB)/Off ※各プリセット毎に調整可
フェイズ(位相) コントロール	0~360°(15°単位で調整可)
デジタルボリューム	-11~+11dB(コントロールパネルより 1dB単位で調整可), -80~+20dB(SubConnectアプリより 1dB単位で調整可)
対応OS (Sub Connect)	Windows (Windows7以降のOS)
入力系統	LFE Input(アンバランス RCA もしくはバランスXLR), Stereo Input(アンバランス RCA)
コントロール端子	12V Trigger入力 (3.5mm モノラルミニジャック), マイク入力 (3.5mm ミニジャック), RS232, IRリピーター 出力 (3.5mm モノラルミニジャック), USB(Type-B)
電源	AC100V, 50/60Hz
消費電量	最大:1200W, スタンバイ:< 0.5W
サイズ(W×H×D) ※スパイク込	504 x 546.3 x 512mm
重量	57.54kg
付属品	リモコン, EQセットアップマイク, Trigger ケーブル, 電源ケーブル

Monitor Audio は常により洗練されたデザイン、設計を目指し製品の改善に努めています。その為、デザイン、性能等事前の予告無しに変更する場合がございます。

保証

本機の保証は株式会社ナスペックが行います。
詳しくは株式会社ナスペックのHP/サポートページ (<http://naspecaudio.com/support/>) をご確認ください。
修理の際は、販売店または株式会社ナスペックにお問合せください。

※修理についてのご質問・送り先は、下記 本社/サービスセンターにてお受け致しております。

詳しいお問い合わせは Monitor Audio 日本輸入総代理店 株式会社ナスペックまで

〒500-8386 岐阜県岐阜市藪田西 1-4-5 TEL : 058-215-7510 FAX : 058-268-7118
☎ : 0120-932-455

e-mail : info@naspecaudio.com

HP : <http://naspecaudio.com>

2016/7/28 (Ver 1.0)